

歴女がゆく

私が出逢ったディープな中世



天野山金剛寺と天野谷 子院群と寺領天野谷

後編

金剛寺の中心伽藍周辺に広がっていた子院群。かつて寺領だった天野谷の里山景観とともに、中世の面影を残しています。

上空からの動画はQRコードから

天野街道から望む風景



Deep!

ココが中世!



現在の大阪狭山市内から下里・天野町を通って、金剛寺に至る道を「天野街道」といいます。街道沿いには豊かな里山景観が広がり、青賀原神社などが点在しています。



摩尼院

後村上天皇がどんな暮らしをしていたのか、想像するだけでもワクワクします



鎮守社

山の上に色鮮やかなふたつの本殿が。祀られている神様は丹生・高野明神と水大明神です



摩尼院 / 市指定十一面観音立像



観蔵院

青賀原神社

金剛寺にはかつて、百近い子院が軒を連ねていました。今も残っている子院の建物としては摩尼院や観蔵院などがあります。

摩尼院には南北朝時代、南朝の後村上天皇が、観蔵院には南朝に幽閉された北朝の三上皇が住んでいました。現在の摩尼院は当時の建物ではありませんが、安土桃山時代の建築で、重要文化財となっています。

金剛寺周辺はかつて天野谷と呼ばれ、現在の天野・下里・小田田町の一部です。平安時代末期の治承四年(1180)に金剛寺領となりました。

下里には、青賀原神社や下里観音堂があり、地元の人々に信仰されています。青賀原神社は天野谷が金剛寺領になった同じ年に創建されたといわれ、主祭神は金剛寺鎮守社と同じ丹生・高野明神です。空海が神社付近を通りかかった時、九つの頭をもつ大蛇に襲われ、高野明神(狩場明神)が大蛇を退治したという伝説も残されています。

中世トリビア④ 女人高野

金剛寺は室生寺(奈良)や慈尊院(和歌山)などとともに「女人高野」と呼ばれます。昔、女人禁制だった高野山に対し、金剛寺では女性の参詣が許されていました。鎌倉時代初期に女性皇族・八条院が金剛寺を支援したことがその理由と考えられ、建久六年(1195年)には尼僧がいたことも確認されています。



今回の歴女

桑山理沙さん

お香の香りや静粛な空間。私にとってお寺は自分と向き合うのにぴったりの場所です。悠久の歴史を物語る路を歩けば、季節によって変わる風景が楽しめます。忙しい日々から距離を置いて、心安らぐひとときを過ごしてみませんか。



河内長野駅からバスに乗車、「天野山」下車 ▶ 入山料: 大人 200円、小学生 100円 ▶ 午前9時~午後4時30分